

4. 地質環境の長期安定性に関する研究

(1) 概要

地質環境の長期安定性に関する研究では、日本の火山活動、地震・断層活動、隆起・侵食、気候・海水準変動などを対象としています。これらの自然現象の特徴および活動や変動による影響の程度を明らかにし、地質環境が将来どのように変化するかを予測する手法の確立をめざして、いくつかの事例を研究しています。

(2) 平成14年度の業務実績

平成13年度に引き続いて、火山活動、地震・断層活動、隆起・侵食、気候・海水準変動などの自然現象や過去の変化に関するデータを収集整備しました。また、それらの自然現象が地下深くの岩盤や地下水に与える影響を調べる技術や方法を整備しました。さらに、地下の地質環境が将来どのように変化していくのかを予測する手法の開発を継続しています。

地震については、「陸域地下構造フロンティア研究」を継続しています。アクロスという革新的な地下調査手法の機器の信頼性を確かめ、解析技術を高めるため、東濃鉦山およびその周辺での観測点の強化をはかりました。また、平成13年度に強化した測地用GPS観測網による跡津川断層周辺における大地の動きの精密観測のほか、地震観測や地質調査により活断層の性質とその影響を研究しました。



火山地域での地下構造調査 コンピュータによる隆起・侵食の解析 地震研究（アクロス装置）

(3) 平成15年度の業務計画

地質環境の長期安定性に関する研究においては、平成14年度に引き続いて、火山活動、地震・断層活動、隆起・侵食、気候・海水準変動などの事例研究を実施し、そのデータをもとにモデルの開発や改良を行っていきます。また、陸域地下構造フロンティア研究では、東濃鉦山およびその周辺でのアクロス観測点をさらに充実させるとともに、跡津川断層周辺では、活断層の性質とその周辺への影響に関する研究を深めます。